

# 海ガメ島プロジェクト

～自然と共存する建築の提案～

ウミガメで小笠原諸島の父島を活性化させる提案である。

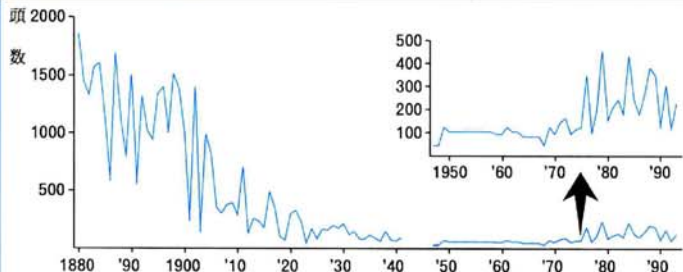
建築に2面性をつくり、海から見たときはランドスケープと一体化したもの、まちから見たときは建築的な表情になるように設計した。

海側の全ての開口は折戸になっており、全て開け放てば内部か外部がよくわからないような曖昧で気持ちのよい空間となる。折り戸を閉じるとまちの光が海岸にいっさい漏れないようになる。

地中で孵化し、地上に脱出した稚ガメは、明るい方へ向かっていく習性があるため、海よりまちが明るい砂浜では、脱出したウミガメがまちの方に行ってしまう、車に轢かれたり、排水溝に落ちたりして死んでしまう。この現状を解決するための建築を提案した。

現在、世界には7種類のウミガメがおり、国際自然保護連合のレッドリストによるとそのうち6種は、絶滅の危機に瀕している。そのため、日本各地から世界各地でウミガメの保護活動が行われている。そこで、アオウミガメの日本最大の繁殖地である、小笠原諸島の父島に行き、1ヶ月間ウミガメ保護のボランティアをしてきた。そこで、ウミガメと人間が共存できていない現状を知りそれを建築的に解決する方法を考案した。

この海ガメ島プロジェクトにより自然と共存する建築が、父島に戻ってくるウミガメを増やし、島がより活性化することを期待する。そして、自然と人間が共存するひとつのあり方として日本各地に、そして世界に発信する拠点となることを狙っている。



小笠原諸島におけるアオウミガメの捕獲頭数 (東京都水産試験場, 1981に加筆)



交尾 2～5月



産卵 5～8月



孵化 7～10月  
産卵後 45～60日



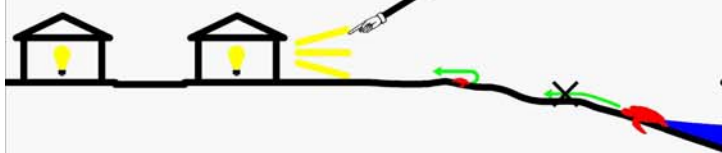
脱出 7～10月  
孵化後 4～7日





1

現状では、まちの光が漏れてしまい、砂浜海岸が明るくなっています。  
そのため、母ガメはこの浜に産卵をすることを嫌います。  
産卵された場合でも、孵化した稚ガメは、脱出後明るい方向へ行く習性があるため、海ではなくまちの方へ向かってしまいます。  
そして、車に轢かれたり、排水溝に落ちたり、体が乾いたりして死んでしまいます。

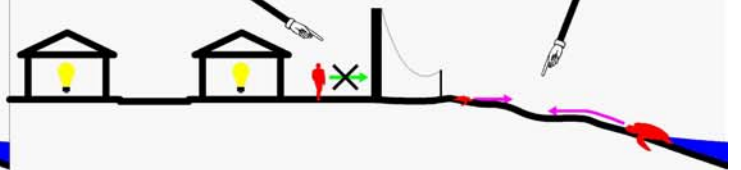


2

砂浜に光が漏れないように壁を立てました。  
母ガメは、産卵のため砂浜に上がってきます。  
孵化した稚ガメも海に帰っていきます。



今度は、まちと海とのつながりが遮断されてしまいます。

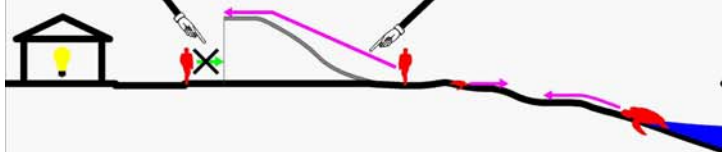


3

砂浜からまちに向かって丘をつくりました。  
『砂浜→まち』のつながりは良くなりました。



『まち→砂浜』のつながりは、建築によって遮断されてしまいます。

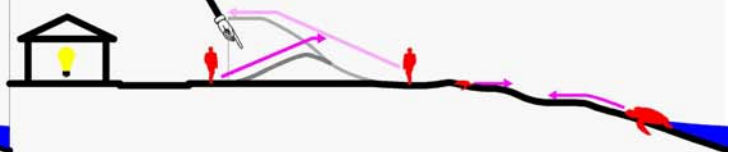


4

まちから砂浜へも出られるように丘をつくりました。  
光を遮りつつも『まちと砂浜』、『砂浜とまち』とのつながりを維持しています。



ウミガメにも人間にもやさしいものができました。

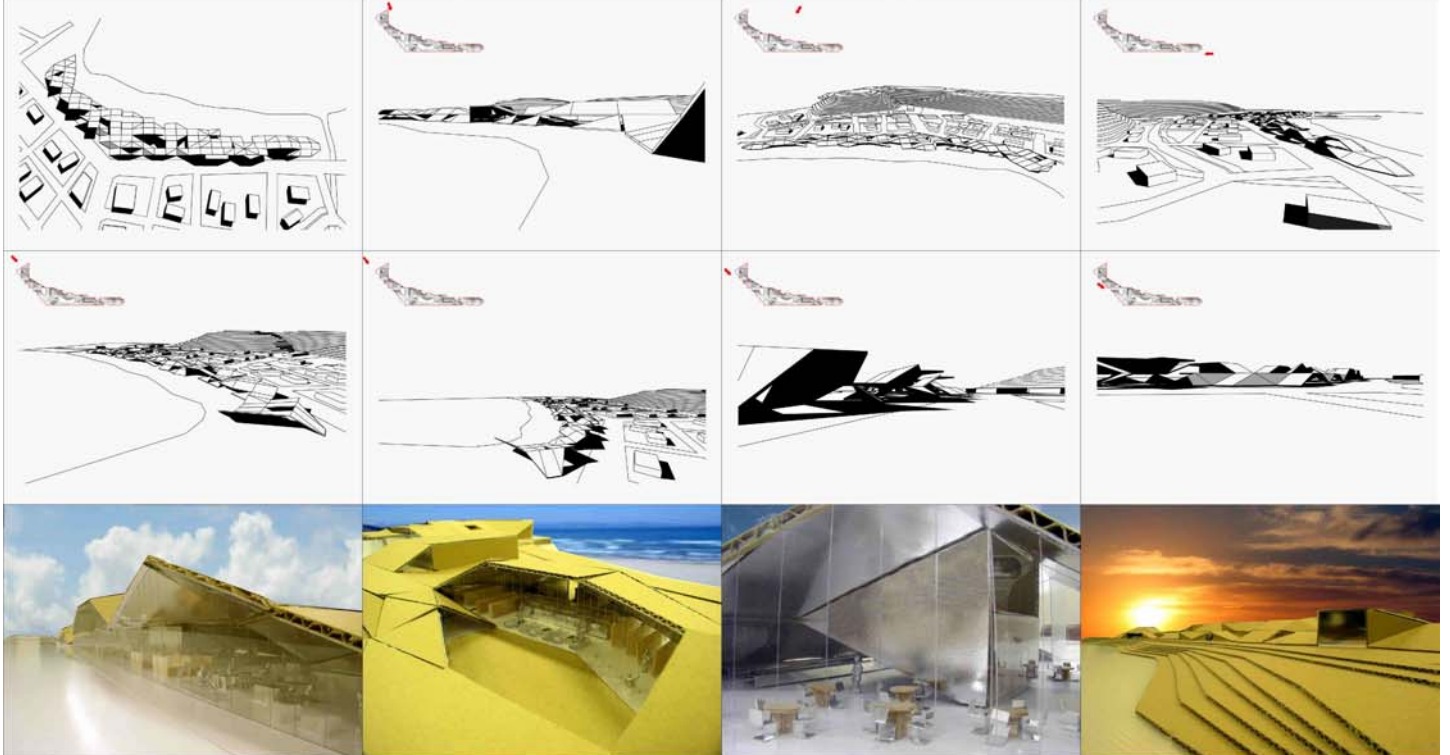




海側から見たときは、ランドスケープと一体になったように見える



まち側から見たときは、建築的なまちの表情に見える



Plan



Section



